

会 議 録

会議の名称	第1回長岡京市地域健康福祉推進委員会児童福祉部会
開催日時	平成16年5月25日(火) 午後1時30分開会～午後4時00分閉会
開催場所	長岡京市役所 4階 大会議室
部会長	安藤和彦委員
出席者	安藤和彦委員、小川委員、森脇委員、室園委員、工藤委員、山科委員、田村委員、大久保委員、古賀委員、大橋委員、澤田石委員、三田委員、川又委員、富岡委員、三代委員、天木委員、安藤ルリ子委員 (以上17名)
欠席者	橋本委員、川畑委員
議題(案件)	(1) 委嘱状の交付 (2) 市長あいさつ (3) 児童福祉部会員紹介 (4) 児童福祉部会長の選任 (5) 次世代育成支援対策行動計画及び児童福祉部会の役割について (6) 次世代育成支援に関するニーズ調査結果の概要について (7) 質疑・応答 (8) その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童福祉部会員名簿</u> ・ <u>長岡京市地域健康福祉推進委員会設置要綱</u> ・ <u>長岡京市次世代育成支援対策地域行動計画策定について</u> ・ <u>次世代育成支援に関する当面の取組方針<概要></u> ・ <u>行動計画策定指針<概要></u> ・ <u>次世代育成支援対策推進法</u> ・ <u>目標設定の指標例(京都府版)</u> ・ <u>次世代育成支援に関するニーズ調査結果の概要</u> ・ <u>長岡京市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書</u>

議 事 の 経 過	
発 言 者	意 見 要 旨
市長	(開会) 1. 委嘱状交付 2. 市長あいさつ あいさつ
各委員	3. 児童福祉部会員紹介 自己紹介
事務局	職員自己紹介 コンサルタント紹介
事務局	4. 児童福祉部会長の選任 ・設置要綱第5条に「部会員の互選により選任する」とあるが、事務局で指名させていただいてよいか。
一同	・異議なし
事務局	・京都文教短期大学の安藤先生にお願いしたい。
部会長	あいさつ ・職務代理者は小川委員にお願いしたい。 ・長岡京市審議会等の会議の公開に関する指針に基づいて、この会を公開とするか、非公開とするかお諮りしたいのだが、この条項では公開ということになっているので、公開ということによいか。 ・会議録の公開について、委員の個人名を出すかどうか、ご意見をお願いしたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的には公開しているが、発言内容が後々個人を攻撃するような発言を伴うものであれば、個人名は伏せて公開することになる。 ・会議録はインターネットで公開する形になる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・個人名を出すか、「A委員」等の表記にするか、どちらがよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議の場に新聞記者等が入ることはあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・可能性はある。この会自体がオープンであり、広く市民に公開せよということが法律の趣旨でもあるので、一般傍聴席を設けて人数を決めて傍聴していただくことになる。 ・個人名についてはA、B等で表記するというだけでよいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の部会と合わせた方がいいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・誰がどういう発言をしたかというのではなく、趣旨だけを会議録として公開するというだけでよいのではないか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・逐一公開するのではなく、概要のみということによいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・名前は無しで、項目毎の意見の概要という形にさせていただく。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・名前は原則的には入らないということで進めていきたい。
市長	退席
	5．次世代育成支援対策行動計画及び児童福祉部会の役割について
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・案件5について、事務局よりご説明願いたい。
事務局	<p>資料確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府向陽保健所は機構改革により乙訓保健所に変更されているので、修正願いたい。 <p>少子化対策（次世代育成支援対策）の経緯について説明 「次世代育成支援対策推進法」に伴う行動計画等の概要説明 「長岡京市次世代育成支援対策地域行動計画策定について」説明 「行動計画策定指針＜概要＞」について説明 「目標設定の指標例」について説明</p>

事務局	<p>6. 次世代育成支援に関するニーズ調査結果の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ調査結果については、サーベイリサーチセンターより報告していただく。
サーベイリサーチセンター	<p>「次世代育成支援に関するニーズ調査結果の概要」について説明</p>
部会長	<p>7. 質疑・応答</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの説明について、まとめて質問をすると混乱する恐れがあるので、まず計画についてのご質問、ご意見をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動計画策定指針の概要のうち、ここで行うのは市町村行動計画の部分で、一般事業主行動計画と特定事業主行動計画は参考で載せているということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうである。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ調査結果についてもご意見があればお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標設定の指標例の 印14項目については、市として目標量を設定し、7月までに京都府に報告することになっており、これについては全国の各市町村が目標量を設定し、提出することになっている。これ以外のものについては任意に目標量を設定し、報告、実施していくということになっている。特に就学前、小学生以上に関わる事業内容がたくさん網羅されているが、これについてご意見をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定保育事業とはどういうものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在事業としてはやっていないが、週に1～2日、不定期に1～2日だけ、午前中だけ等、週4日以上という条件以外の保育のことである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ つどいの広場事業とは何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の空き店舗を利用し、子育て中の保護者が集まれる施設を設け、NPO等に委託してそこで保育相談等が出来るような事業である。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生以上の難しい年代の施策が抜けているように思う。それをここに入れるのか、また別枠にするのかお聞きしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生を対象とした調査ということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・視点が小学生や就学前のことになっているので、そういったことを中心に考えればいいのか。中高生のことも視点に入れておくべきだと思うので、その点についてお聞きしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生やその上の青年層についてもこの計画の対象になるし、若い親についても対象になるので、それぞれの意見を反映して行動計画を策定しなければならないと考えている。また、そういった方を対象としたアンケートも考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に京都府に目標量を報告するというので、この会議の第2回も7月ということだが、この前後関係はどうなるのか。報告が終わってから会議が開かれれば私達の意見が入らないことになるので、目標量について議論できるようなスケジュールになっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県から国に報告するものについては7月だが、一旦目標量を報告し、その後最終的にこの行動計画の中で定めていく数値は来年3月末までなので、修正の必要があればその都度修正を加えていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先に報告してから、議論を図っていくということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国が決めた事業だけではなく、長岡京市独自でやっていく裁量的なものはあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画の指針に示されている項目の中で、もしくはまだ記載されていない内容で、市独自で対応できるものがあるならば、当然裁量の中で加えていくし、計画の中にも謳っていかなければならないと考えている。 ・14項目の中の大部分は行政としてやっている。今後目標量を設定する中で、推定ニーズ量を今回把握したわけだが、今どこの市町村でも行動計画の中で市民の色々なニーズがあり、皆さんの意見、担当者の意見等から莫大な量の計画を作ったとしても、5年間で出来るかどうか、財政状況、地域的なもの等があるので、現行の供給量や財政状況を考慮しながら、供給可能なサービス量を設定して、こ

	<p>れを目標量として計画に盛り込む等、理想と現実の問題がある。病児保育についても非常に大切であると思うが、目標量を設定しても、それがこの5年で出来るかどうか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国が定めた政策領域以外のものについては、この5年間にせよ、ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・5年毎に見直して、この10年間でということである。10年間で財政状況も考慮しながら計画を加えていかなければならない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がやるべきことについては、政策領域以外のものとしてここに入れてもよいのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・目標量の設定については行政がやるべきことと市民がやるべきことの問題がある。例えば父親の育児参加率を目標量として出すということも、今のご意見の市民参加の目標ということになるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国が定めたこと以外の、長岡京市民としての課題や、市が出来ることについても、入れていくことは可能か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の児童育成計画の中には、長岡京市独自で国が特に指示していない部分も謳っているし、行動計画の中にも当然入れていきたいと思っている。ただ、大変量も多いし、財源を伴うものが果たしてこの5年、10年でどこまで達成出来るかについては、行政だけで担っていくのは大変であるし、国や事業主が一体となって取り組んでいく中で、市民にも手伝ってもらわなければならない部分も入ってくるだろう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、厚生労働省が出している健康日本21運動というものがあるが、これは行政からの押し付けではなく、市民が独自に健康づくりを進めていく運動を行政が支援するというものである。健康づくりにしても自分の力でやっていくしかない。そういう意味で子育て支援についても、そういう方向でやっていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童育成計画については、全国での策定率はそれ程高くないようだが、今回の行動計画は義務化であり、長岡京市は既に児童育成計画を作っているのだから、他市よりは進んでいるのではないかと思う。今度はそれを検討しつつ包括的に進められたらよいのではないか。 ・この計画の先行策定市はどこか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で53の先行策定モデル市町村があるが、目標事業量の設定が難しく、目標量を設定できない市町村もあるようである。5年間に出来るかどうかわからないので、目標設定量がはっきり入っていないという計画も、他の市でもあるかもしれない。 ・今、特に国が指定している14項目の中で、児童育成計画の進行管理の中で長岡京市として今既に取り組みが何らかの形で行なわれているものは、地域における子育て支援の中のファミリーサポートセンター事業、これについてはかなりの成果を上げている。ファミリーサポートセンターの利用については、年々増加している。また、放課後児童健全育成事業の留守家庭児童会は各小学校で実施されている。一時保育事業は現在民間の2保育園で、地域子育て支援センター事業は、長岡京市の2か所で実施しており、これも非常に盛況である。そして、通常保育事業。延長保育事業については2か所で夜7時半まで実施している。この後、特に 印が付いている内容について目標量を設定し、既に立ち上がっているものの充実も含めて取り組んでいきたい。その他のものについても、行動計画の中で示していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印は何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が示しているが報告の任意のものである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印は何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府独自のもので、国の基準プラス京都府独自のものも付け加えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標指標例は定員数と設置箇所数で非常にシンプルに評価するようだが、質的評価まではしないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところは数値を示すということである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ この会の中で議論するのは 印の部分だけか。指標例の(6)子ども等の安全の確保については、子どもを持つ親としてすごく不安を感じている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国に報告しなければならないものが、この14項目である。それ以外のことについても、当然この計画の中には謳い込んでいくし、当然今ある児童育成計画の中に謳っている「児童の安全」についても、

委員	<p>更に継承して充実させていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量で評価していく部分と、利用者の満足度等で評価する部分があり、それによって報告する中味のレベルが違う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まず数字だけは国に報告し、全国でどのくらい必要か、予算を調べるという理由もあるのではないかと思う。 ・先日京都府との話し合いで、民間や個人でやっている事業も数値目標に入るのか、認可外の事業も数値目標に入れるのか、逆に言うと、認可だけでは数値目標を達成することは出来ないのではないかという意見があった。そういうことも数値目標としてどこまで採り入れていくのか、という問題がある。夜間にしても休日にしても認可全部が出来るかどうかは、非常に難しい。京都府としてもそういうことについては、今後考えていかなければならないだろうということだった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査で、「こういうことでお困りですか？」と聞かれて、そういう時に助けてくれるサービスがあればいいということで、丸を付けるのは当然であり、これは意見誘導的である。子どもを産み育てるということは大変だというような観点からの施策ではなく、子育ては非常に面白いとか、親自身が楽しいとか、そういう施策があってもいいのではないか。そういうものはだいたいお金が要らないのが普通である。親が子どもを育てるということは大事であり、尊く、嬉しいことである。この施策のほとんどは、子育ては大変だから代わりにやってあげましょう、という観点から書かれている。補うのではなく、むしろ誘導するようなものを考えることも必要ではないか。 ・私が注目しているのは満足度の評価である。質の評価は勿論一番大事なことだと思うのだが、要するに数値目標をベースにして考えても読み取れないものをここで議論すべきであり、子育ての喜びや使命感を伝える事業をすべきである。親には子どもを育てる喜びを感じる権利があるのだから、それを奪うような施策はおかしい。サービスの充実は、同時に親からそういう喜びを持つ権利を奪うという面もあるということを考えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今おっしゃった視点は、今までの行政ではある意味では抜け落ちていた部分だと思う。そういう流れの中で少子化という大きな問題が起こってきたのだが、行政としても数値だけでの評価ではなく、子どもを産み育てていく中で喜びを感じられる社会を、次世代育成計画の中で構築していくことがこの行動計画の目的でもあるので、そ

委員	<p>ういった点についても十分に配慮して、反映させていかなければならないと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本理念から言うならば、子育てはやはり社会的であり、一番の基本単位の家庭でやるべきことだということをきちんと押さえておきながら、尚、今子育てがしにくいということに対して、どういう支援をしていくのか。やはり社会的に支援していくところをきちんとしていただかないと、また子育てに喜びを持ってない親がおかしいというような論法になると、時代錯誤ではないかと思う。子どもを育てることに喜びを持ってやるような環境を作っていくということは基本に置いてもらえばいいと思うが、親は子育てに喜びを持ってやりなさい、というような理念だけではやれないような状態になっているので、次のステップに進んでほしい。 ・子育てが女性に関わりすぎている。子育てがどんなに大事かという評価があまりにも小さすぎるということは、女性は皆感じていると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている親にとっては、子どもが病気をした時でも預かってもらえる施設は絶対必要だと思うが、預ける側も単に預けるという姿勢だと、どうしても子どもは親の付属物に過ぎなくなる。要するに自分の都合が悪ければ預ける、そういう姿勢から虐待等が起こりやすくなるのではないか。やはり預かる側も預ける側も、そういう視点をしっかり持って、子どもを預けるということは社会生活という、人と関わる大事な機会だという心構えでやっていただかないと、結局は今のような状態がどんどんエスカレートしていくのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気の時に休めないという理由で会社を辞めた。病気でも預けられる所を、というのではなく、父親でも母親でも会社を休めるようにしてもらえると、子育てしやすくなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・301名以上雇用している企業に限られているが、この行動計画は事業所も作らなくてはならないので、そういうものが一つの突破口として作られていくということは大きな意味があると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私達が子どもの頃は、幼児でも一人で遊びに行けたが、今は小学生でも親が送り迎えをしなければならない。それでも少し目を離れた隙に、連れ去られたり事故に遭ったりしてはいけないと、いつも心配しながら遊びに行かせている。横浜では学校で申請した人の子もだけ預かり、学校に残って遊ばせる「はまっ子」という事業があ

委員	<p>り、そこで近くのお年寄りが手遊びを教えてくれたりしていた。長岡京市にもそういうものがあると、特に低学年の子等は、学校や公民館のように安心して一人で行かせられる所があると、子育て中の母親としては安心だし、虐待も勿論だが、誘拐や連れ去りの不安も軽減されるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どういうところに重点を置いて、あるいはどういうものを行なうかということでニーズ調査も行なわれたのだと思うが、その他に経験というものがある。保育に関するものの経験が、今現在どう評価されているか。うまくいったもの、時代が変わって役割を終えているもの、またこれから必要になってくると見えているもの、そういった判断をするのは、やはり現場におられる方ではないかと思う。5年、10年前の保育園、幼稚園、小学校の関わりのことが今の中高生の状況を作っているなら、やはり中学校までの長岡京市の保育教育の環境はどうだったのかという評価は、やはり資料として必要なのではないか。中学校の現場でどのような子どもの問題を抱えているのか、そしてそれが例えば小学校やそれ以前の段階の教育、保育、親の子育て、どういったものと結びついているのか、そういった分析に基づいて、今の保育、又は小学校教育、又は親の役割として何が必要であるのか、そういったものを支える為にどのような行政の施策が可能であるのか、その辺を是非結び付けていただいて、現在のニーズだけではなく、過去の経験に基づく知恵を是非入れていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域子育て支援センターは現在2か所あるが、非常に利用者が多いので、ゆっくり出来るスペースが無いのが現実である。これを増やすお考えはあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の保育所の現状で言うと、まず入所させるという課題がある。800人ぐらいにまで入所児童数が減った時期もあったが、今は1,200人ぐらいの児童数となっている。就学前児童の25%まで保育所の需要が高まっている中で、子育て支援センターをもう一つつくるということは難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てというどうしても大人がアンケートに答えて、大人が子どもに与えたいものや、親が不安を解消したいもの等が主になってしまいうのだが、病気の時に子どもは誰と一緒にいてほしいのか、子どもはどのような遊び場がほしいのか、親が求めているものと、子どもが欲しているものに差があるということがアンケートにも見られるので、子育てという親側の部分ばかりではなく、子どもに聞くこと

	<p>は難しいが、子どもが望んでいる観点からの事業も少しずつ採り入れていけるようになればいいと思う。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今おっしゃった視点は、最低限必要だろう。子育て支援とその他の項目があるが、目標指標を出すのに色んな要因が出てくる。例えば、子どもは減ってきているという要素、共働きが増えてくる要素、共働きについては地域における子育て支援が増えていく要素が多いと思うが、単純に子どもが減ってくる場合もあるわけで、その要素だけで動く場合もある。そうすると目標指標というのは、現状からずっとプラスになっていくのかどうかということも含めて検討していかないと、プラスになると見込んでいたら、将来それが必要でなくなるということも起こってくるかもしれないので、共働きが増えることは増えると思うが、それに関わらない問題についての目標設定というのは、また違う要因が出てくるのではないかな。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書については、これから先機会を見て質問を出していただければよいので、お持ち帰りいただいてゆっくりお目通しいただきたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん項目が並んでいるが、内容的に似通ったものがある。例えば一時保育事業と特定保育事業は別々の項目にして検討する必要があるのか。幼稚園の預かり保育についても一時保育と連携して考えていった方がいいのではないかな。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育と特定保育は補助金の中味が違う。特定保育は低額で保育料を設定しなければならない。特定保育を一箇所だけでやると、週2日くらい就労している人の保育需要が増え、特定保育の待機児童が出る可能性もある。事務的にも特定保育の入所受付、通常保育の入所受付、それに対する入所措置と、事務局としては非常に厳しい中でやっている。本来は全てやりたいのだが、特定保育も年齢層が違うので、0歳児を預かる場所、5歳児までを預かる場所と、保育所の中に別のスペースとして2～3つの部屋が必要になってくるので、特定保育をするのは非常に難しい面があり、行政でもやりたいのだが今すぐというわけにはいかない。それと、今少子化が進んでいるのに、保育児童数が増えてきているということがあり、非常に厳しい。なるべく待機児童を減らすように努力しているが、保育所の数も必要になる可能性もある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的にはニーズ調査の数字を基に検討するのだと思うが、これだけを見ると、数字だけが一人歩きする危険があるのではないかな。前回のアンケートでは、例えば留守家庭児童会が利用出来るのは1～4年生までという規定があるので、4～6年生の利用率は4年生の

	<p>みの利用率であり、1～3年生の利用率の1/3になっている。他の部分についても、わからない人がこの数字だけを見たら、かなり危険である。例えば部局でも、今まで対応していた人が異動して新しい人が入ったら、その状況をわかってもらえるのか不安である。そういう意味で、この委員会にも過去のことを知っている経験者がいるので、部局もそういう形で違う部局に行ったとしても、やはり過去の経験をうまく利用しないと、この数字はすごく危ないと思った。そういう意味で、数値を挙げていく中では、質の評価等については考慮していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念という形では出ているが、しっかりした理念をきちんと言ってくれないと、相変わらず長岡京市の中でも、何故母親が働くのか、働かなければ留守家庭児童会も保育所も要らないのではないかと、というような古い考えが、地域には相変わらずある。それが議員からも出るという非常に情けない話を聞く。やはりそういうことをきちんと押さえられるような形で、前文を作っていただきたい。やはり全国的に見ても女性が働くことに対する理解が得られない地域が結構あるので、その中で次世代育成計画を各自治体で作らなければならないということになった現状では、やはりそこも改善できるのではないかと期待もあるので、是非お願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に政策領域について討論されていくと思うが、その時に、少子化が進んでいるが両親の共働きは随分進んできた中で、子どもが変わってきているという、長岡京市の子どもや若い世代が置かれている現状等、そういうことがわかる範囲で、皆の共通理解が一つ示されてもいいのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまでできるかわからないが、長岡京市の子どもが置かれている状況が把握できるような資料をお示し出来るようにしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それを出していただいて、そこで長岡京市の若い世代をどう理解するかという共通理解を持たないと、いつまでも平行線のままで、考え方が統一しないのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに出せるのは人口動態で、長岡京市の児童がどのように推移しているかという資料については、少なくともお渡し出来る。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、西口やオムロン跡地が開発されているが、そういうことを多分把握されているはずなので、長岡京市が再開発されている所で、どれだけの世帯が保育対象なのか留守家庭対象なのか、もしそういう推測のものでもあれば、出していただきたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今の件については、どういう方が入って来られるかということは企業の情報になるので、なかなか難しい問題があるかと思うが、マンションが出来ても人口が増えていないという状況から考えると、市内での転居が非常に多いのではないかと。今後の予定に駅前があるが、その世帯を調べるということは個人情報になるので、どこまで教えてもらえるか、それを事務局だけで把握しておくべきなのか、皆様に出してもいいのかという問題もあるし、その辺りは色々考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・戸数や世帯数だけなら出せるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それは可能である。阪急の開発のマンションで195戸、駅前が194戸、オムロン跡地で200戸ぐらい、後は一戸建てで200戸ぐらいという情報がある。我々としても、保育事業や留守家庭児童会等、需要がどれだけ増えるか非常に心配している。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に無ければ、予定時間になっているので、終わらせていただいてもいいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の部会は7月27日(火)に考えているが、正式には通知文を送付させていただくので、よろしく願いしたい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はお忙しい中、熱心にご審議いただきありがとうございました。次回もご都合もおありかと思うが、出来るだけご出席願ひ、ご意見を願ひしたい。 <p>(閉会)</p>